

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520748

研究課題名(和文) 異性装の比較文化史

研究課題名(英文) Comparison cultural history of cross-dressing

## 研究代表者

武田 佐知子 (TAKEDA, Sachiko)

追手門学院大学・地域創造学部・教授

研究者番号：00181412

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：3年で計11回の「異性装」に関わる研究報告会を行った。内容は時代や地域を問わず、様々な分野を横断・比較したもので、衣服を軸としつつも、ひろく身体(声を含む)表象全般との関わりについても「異性装」を捉えることで、「異性装」の定義についても議論が及んだ。また異性装が世界で最もさかんな国であるタイのチュラロンコーン大学にて研究者、研究分担者・推進者を交えてのシンポジウムを開催し、意見を交換することで、「異性装の比較文化史」をより高次のものへと発展させることができ、大きな成果を生んだ。

研究成果の概要(英文)：Over 3 years 11 research-in-process meetings were held regarding "cross-dressing".

The contents contrasted and compared various fields not specific in any period or region. Even though centered on clothing, the discussion extended to the body (voice included), and the general representation of "cross-dressing" was attained, and the definition of "cross-dressing" was discussed.

Furthermore, the symposium was held at Chulalongkorn University in Thailand, where cross-dressing is very prominent, and we were able to attain a successful discussion among researchers and supporters that lead to a higher level of understanding of "comparative culture of cross-dressing".

研究分野：日本史

キーワード：異性装 比較文化史 服飾 トランスジェンダー タイ

### 1. 研究開始当初の背景

ジェンダーに関する概念は西洋を中心とした考察が多い一方で、アジアにおける問題意識は希薄であった。

そこで、日本やタイを主としてアジアにおける異性装や身体表象に関する問題を分析、解明することにより、従来の西洋中心のジェンダー研究とは異なる視点でのジェンダー観を提示する必要がある。

また、同時に異性装・ジェンダーを巡る諸問題は様々な分野に広がっており、研究者一人一人のテーマだけでは補完できない状況があった。

そのため、様々な専門の研究者を報告者とし、(時には研究担当者や研究協力者以外の外部からの報告者を招くことで、)様々な分野の、異性装・ジェンダーに関する新しい研究報告が必要であった。

### 2. 研究の目的

「着衣と女性」の問題意識から発展したテーマ、異性装および身体表象の問題を、歴史・文化史的な視点から捉え直すことを目的とする。具体的には、日本及びタイを始めとするアジアにおける異性装の状況を分析し、その文化表象の背景にある構造を解明する。それにより、異性装とジェンダーの関係を歴史の多様性の中で理解し、再びグローバルな枠組みの中で総合するとともに、世界の中での、従来の西洋を中心としたジェンダー表象概念に対する批判的な提言をすることを、研究の最終的な目的とするものである。また、「異性装」を、衣服を軸としつつも、ひろく身体(声を含む)表象全般との関わりの中に定義し直すことにより、比較文化史研究の基礎的な共有概念として設定することを目指している。

### 3. 研究の方法

歴史や文化史、身体表象など、多様な専門の研究者による様々な視点で異性装やジェンダーを捉え、研究会において発表・議論を行った。研究報告者には本研究に関する研究を行っている研究者をゲストとして招くことで、より広い視野からの研究報告を得た。分野においても、服装史や芸能、身体や漫画、文学、映画など従来の歴史や文化史にとらわれない、分野(領域)横断の研究報告会となった。すなわち、衣服のみにとらわれず、声を含む身体表象との関わりにも「異性装」を設定することとなった。このことにより、当初目指していた、比較文化史研究の基礎としての異性装・ジェンダー研究に貢献できたといえる。

研究報告会では、毎回(研究担当者、研究分担者、研究協力者以外の外部からも積極的に参加された)出席者同士による議論が活潑に交わされ、議論の中から生まれた観点も少

なくなく、報告者、研究者、出席者それぞれの研究の発展に寄与した。

また、日本やタイにおける異性装に注目し、現地調査を行うことで、アジアにおける異性装の実際やジェンダーの問題に迫った。現地調査だけでなく、タイのチェンマイ大学や大阪大学バンコク教育センターにおいては講演会を開き、その場でも活潑な議論がなされ、新たな知見を得、本研究を進める推進力となった。

### 4. 研究成果

3年で計11回の研究会を行い、各研究報告者による、様々な切り口で異性装及びジェンダーについて研究報告があり、それぞれのテーマについて議論された。テーマは多岐に渡り、その結果として多様な観点からの報告がなされた。各研究報告会のテーマは以下の通りであり、異性装とジェンダーを巡って様々な議論がなされたことを示すことができるであろう。研究報告会には、本研究に関連する研究を行っている研究者をゲストとして招聘することもあった。毎回外部にも公開して開催しており、研究者、研究分担者・協力者のみならず、様々な参加者による活潑な議論が行われた。異性装やジェンダーにまつわる諸問題は、多岐に渡っており、このような分野(領域)横断の研究報告会によってなされるであろうということを示すことができた。

外部から招聘した研究報告者にとっても、これまでと違う視点で自らの研究を捉える機会となり、異性装・ジェンダーに関する問題もこれからの研究に加えることのできる最良の機会となった。

#### 研究報告会の報告者とテーマ(全11回):

小山有子(大阪大学)「「非常時」のファッション~旧制日本女子大生に聞く「エプロンモンペ」~」(2012年6月29日(金))

真鍋昌賢(北九州市立大学)「浪曲における女流 2代目天中軒雲月を中心として」(2012年11月29日(木))

加納寛(愛知大学)「タイにおける近代化と服飾変遷:ピブーン政権期の女性服飾を中心に」(2013年1月16日(水))

稗島武(飯塚病院)「「既製服」について考える~もうひとつの身体の発見~」(2013年3月26日(火))

小橋玲治(甲南高等学校非常勤)「「三重の変身」における異性装の意味 河竹黙阿弥『女書生』(1877年)」(2013年5月15日(水))

中尾薫(大阪大学)「能の異性装をめぐって」(2013年7月3日(水))

百々徹(神戸ファッション美術館学芸員)「着衣と身体 身体図式と型の観点から」(2013年7月24日(水))

押山美知子(専修大学非常勤)「少女マ

ンガの男装キャラクターにおける身体表象  
男装と女性身体の関係について」(2013年  
10月9日(水))

平松秀樹(大阪大学)「タイの異性装と  
ジェンダー 文学・映画から考える」(2014  
年2月6日(木))

新谷好(追手門学院大学)「服装と女優  
ワイルドのセクシュアリティの観点から」  
(2014年5月28日(水))

真鍋昌賢(北九州市立大学)「資料への  
接近、方法の希求 柿田肇さんの視点につい  
て」東園子(大阪大学)「宝塚へのまなざし」  
(2014年6月5日(木))

タイでの調査・研究も進み、2年目にはタイ  
のチェンマイ大学において講演会を実施  
した。同時に少数民族の衣装調査も行った。  
大阪大学バンコク教育センターにおいても  
講演会を開き、当地の学生や在住日本人を含  
む様々な層と活潑な議論がなされた。

国内外での調査や研究発表を通し、多様な  
分野における異性装・ジェンダーの問題に迫  
り、分野を横断したアジアにおける異性装や  
ジェンダーについて一定の成果を得ることが  
できた。特に、アジアにおける異性装・ジェ  
ンダーの研究を進めることで、従来の西洋  
中心であったジェンダー研究に対する提言  
を設定することができたであろう。

タイでの講演会や調査以降も、調査・研究  
は進められており、これからの異性装・ジェ  
ンダー研究にとって不可欠な研究のひとつ  
となるであろう。

本研究の3年間で、本研究費を活用した研  
究による書籍、論文、学会発表が行われたこ  
とは、本研究の成果を広く社会に知らせる絶  
好の機会となった。本研究が社会に貢献した  
成果のひとつといえる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

武田佐知子、聖徳太子の造形 仏教文化から  
みる聖徳太子、藝林、査読無、61巻1号、  
2012、pp.77-109

〔学会発表〕(計 3件)

東園子、宝塚歌劇における衣服のクロ  
スジェンダー、異性装等をめぐる研究  
会、北九州大学、2014年12月1日

武田佐知子、「異性装」からみる日本文  
化史、Dressing Japan、2013年9月14  
日、チェンマイ大学

真鍋昌賢、「民俗芸術」の可能性と限界、  
第37回日本口承文芸学会大会シンポ  
ジウム「口承文芸」「民俗研究の可能性

を問う 昭和初期からの照射」、2013  
年6月2日、森下文化センター

〔図書〕(計 4件)

真鍋昌賢(分担執筆)民俗学事典編集委員  
会編、丸善、民俗学事典(執筆部分「語り物  
と大衆文化」)、2014、800ページ(該当部分  
pp.634-635)

武田佐知子、思文閣出版、交錯する知 衣  
装・信仰・女性、2014、688ページ

武田佐知子、思文閣出版、歴史における周  
縁と共生 女性・穢れ・衛生、2014、370  
ページ

真鍋昌賢、有志社、講座東アジアの知識人  
2 近代国家の形成、2013、364ページ

真鍋昌賢、ASHGATE、Music, Modernity and  
Locality in Prewar Japan: Osaka and Beyon、  
2013、307ページ

武田佐知子、思文閣出版、着衣する身体と  
女性の周縁化、2012、489ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

武田佐知子(TAKEDA, Sachiko)

追手門学院大学・地域創造学部・教授

研究者番号:00181412

(2)研究分担者

真鍋昌賢(MANABE, Masayoshi)

北九州市立大学・文学部・教授

研究者番号:50346152

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

平松秀樹 (HIRAMATSU, Hideki)

小橋玲治 (KOHASHI, Reiji)

東園子 (AZUMA, Sonoko)

小山有子 (KOYAMA, Yuko)